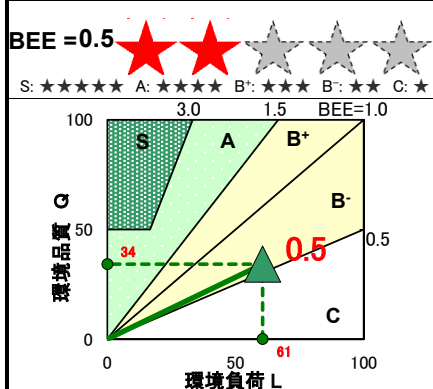




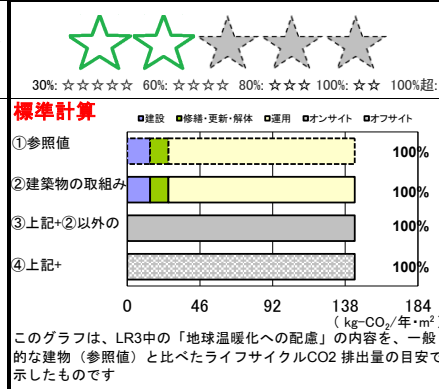
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)青葉台プロジェクト新築工事	階数	地上5F
建設地	横浜市青葉区青葉台2-9-1、3、4、18、19、20	構造	S造
用途地域	近隣商業、防火地域2種中高、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、病院、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年9月4日
敷地面積	1,479 m ²	作成者	野路 健太郎
建築面積	933 m ²	確認日	
延床面積	3,670 m ²	確認者	

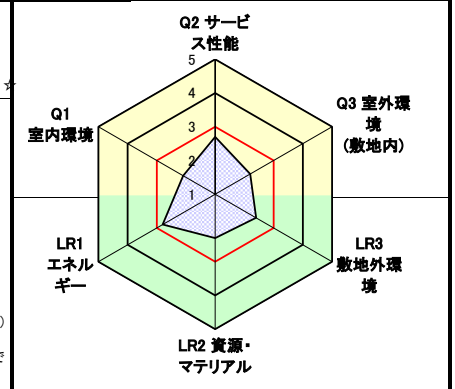
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



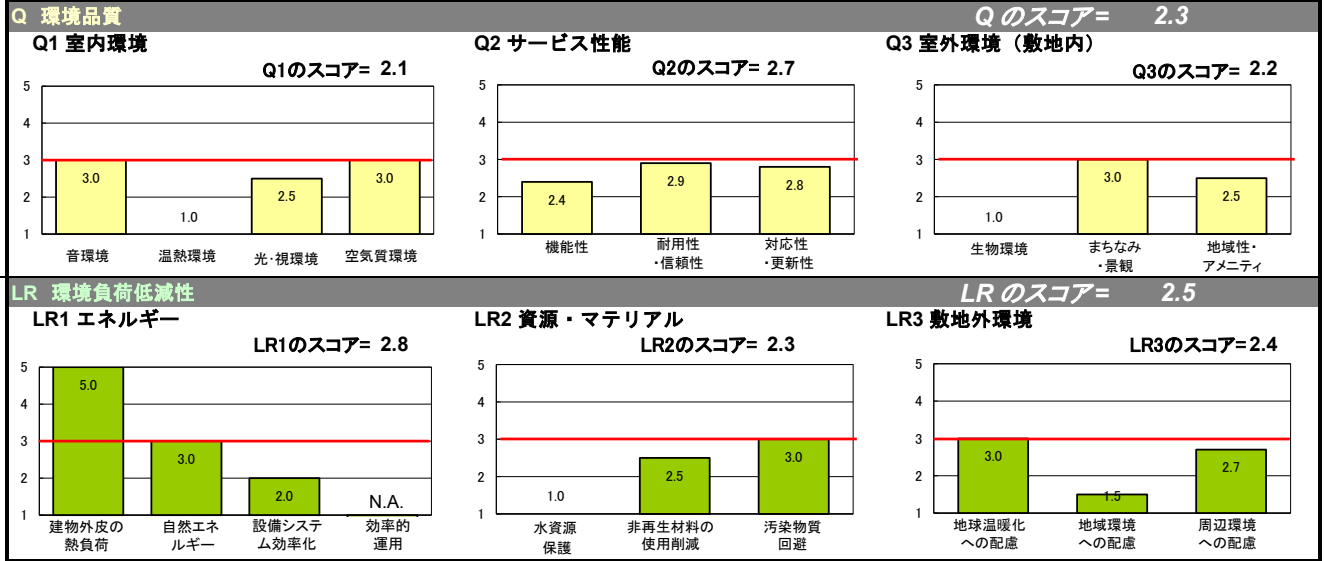
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<p>●周辺は駅前の商業地域であるが、北西側に住居系の用途があることから地域の景観及び日照に配慮した色彩、高さとした。●道路等の公共空間に配慮し1階は建物を後退させることで歩行者の安全を確保するとともに利用者が建物にアプローチしやすい計画とした。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>●F☆☆☆☆の建材を積極的に採用することで室内空気質環境に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>●耐用年数の長い配管材料を採用し設備の耐久性に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>●建物の配置、形態、植栽などを周辺との調和に配慮した計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>●開口部は可能な限り複層ガラスを採用するとともに、屋上部分には断熱材を設置することで建物外皮の熱負荷抑制に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>●解体時におけるリサイクルを促進する対策とし躯体と仕上げ材が容易に分別可能な計画とした。●接着剤には指定化学物質が含まれないものを使用することで室内空気質に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>●北側の店舗・事務所ビル及び北西側の集合住宅の日照に配慮し、上階になるに連れ北西側の建物高さを低く抑えるように計画した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

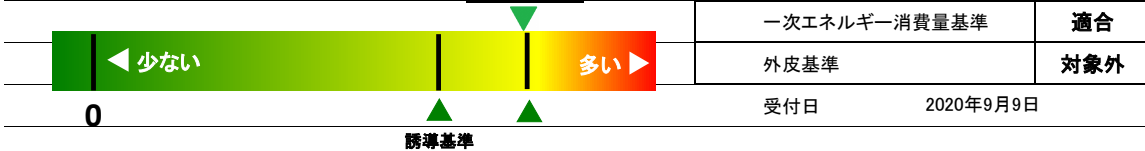
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)青葉台プロジェクト新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **2**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **0** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

開口部は可能な限り複層ガラスを採用するとともに、屋上部分には断熱材を設置することで建物外皮の熱負荷抑制に配慮した。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **2**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

F☆☆☆☆の建材を積極的に採用することで室内空気質環境に配慮した。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

床面においては防汚性の高い建材、塗装、コーティングを採用し、適度な水を使用して洗浄可能な設計、構造で計画している。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

建物の配置、形態などを周辺に配慮した計画とし、植栽及び屋上緑化を採用することで環境負荷低減に配慮した。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

建築基準法に定められた耐震性を有する。

外装仕上げ材の補修必要間隔20年、主要内装仕上げ材更新必要間隔10年の建材を使用。

災害時等に利用者の安全を確保するため非常用発電設備を備えている。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

屋上を陸屋根とし、屋上緑化を積極的に採用することで環境負荷低減に配慮した。

地域の景観及び日照に配慮した色彩、高さとした。

1階の壁面を後退させることで歩行者の安全を確保するとともに利用者の建物へのアプローチの利便性に配慮した。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)青葉台プロジェクト新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目	<非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
							評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1.2 遮音									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
3.2 グレア対策									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
4.2 換気									
4.3 運用管理									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1.2 心理性・快適性									
1.3 維持管理									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
2.2 部品・部材の耐用年数									
2.4 信頼性									
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 (仮称)青葉台プロジェクト新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-			2.2
1	生物環境の保全と創出		⑧生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-			1.0
2	まちなみ・景観への配慮		⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-			3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		⑩地域性への配慮	3.0	0.50	-	-			-
3.2	敷地内温熱環境の向上		⑪敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			2.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			2.8
1	建物外皮の熱負荷抑制		⑫建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.25	-	-			5.0
2	自然エネルギー利用		⑬自然エネルギー利用	3.0	0.13	-	-			3.0
3	設備システムの高効率化		⑭設備システムの高効率化	2.0	0.63	-	-			2.0
4	効率的運用			-	-	-	-			-
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-			-
4.1	モニタリング		⑮効率的運用	-	-	-	-			-
4.2	運用管理体制		⑮効率的運用	-	-	-	-			-
	集合住宅の評価			-	-	-	-			-
4.1	モニタリング		⑮効率的運用	-	-	-	-			-
4.2	運用管理体制		⑮効率的運用	-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			2.3
1	水資源保護			1.0	0.20	-	-			1.0
1.1	節水			1.0	1.00	-	-			-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			-	-	-	-			-
1	雨水利用システム導入の有無			-	-	-	-			-
2	雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-			-
2	非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-			2.5
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-			-
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-			-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-			-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-			-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-			-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-			-
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-			-
3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-			-
1	消火剤			-	-	-	-			-
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00	-	-			-
3	冷媒			-	-	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			2.4
1	地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-			3.0
2	地域環境への配慮			1.5	0.33	-	-			1.5
2.1	大気汚染防止			-	-	-	-			-
2.2	温熱環境悪化の改善			1.0	0.67	-	-			-
2.3	地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.33	-	-			-
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.33	-	-			-
2	汚水処理負荷抑制			-	-	-	-			-
3	交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-			-
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.33	-	-			-
3	周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-			2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			-
1	騒音			3.0	1.00	-	-			-
2	振動			-	-	-	-			-
3	悪臭			-	-	-	-			-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-			-
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-			-
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-			-
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-			-
3.3	光害の抑制			1.6	0.20	-	-			-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-			-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-			-

上記以外の重点項目									
<事務用途>				-	-	-	-		
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑯知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-		
<住宅用途>				-	-	-	-		
健康と安心				-	-	-	-		
1	化学汚染物質の対策		健康・安心	⑰健康対策	-	-	-		
2	適切な換気計画		健康・安心	⑰健康対策	-	-	-		
3	結露・カビ対策		健康・安心	⑰健康対策	-	-	-		
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑱防犯対策	-	-	-		